

平成 21 年 4 月 23 日現在

研究種目：基盤研究（B）  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18390590  
研究課題名（和文）がん看護領域における効果的外部コンサルタント導入プロセスの構造に関する研究  
研究課題名（英文）Research on the structure of the effective outside consultant introduction process in the oncology nursing area  
研究代表者  
内布敦子（UCHINUNO ATSUKO）  
兵庫県立大学・看護学部・教授  
研究者番号：20232861

研究分野：医歯薬学  
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学  
キーワード：がん看護、コンサルテーション

### 1. 研究計画の概要

当初の4年間の研究計画は以下の通りである。

- (1)平成 18 年度（初年度）は、外部コンサルタントの役割やがん医療における看護コンサルテーションに関する文献検討を行い、地域がん拠点病院を対象にコンサルテーションニーズに関するヒアリングを実施する。ヒアリング結果をもとにコンサルテーションニーズの概要を明らかにし、次年度調査の質問紙を作成する。さらにコンサルテーションを想定して必要な資料を整備する。
- (2)平成 19 年度は、前年度に作成したコンサルテーションニーズ調査表を用いて、全国 135 箇所の地域がん拠点病院へアンケート用紙を送付し調査を行う。
- (3)平成 20 年度は、前年度に作成した支援プログラムを、地域がん拠点病院のコンサルテーション活動で活用する。コンサルテーションのプロセスは、一般的にシステムへの参入、問題の明確化、目標と期待する結果の明確化、データ収集、計画、計画の実行と経過、フォローアップの順に段階的に進み、～の段階に非常に時間がかかる。したがって、コンサルテーションの中でプログラムを活用しながら内容を洗練させていくアクションリサーチを行う。
- (4)平成 21 年度は、前年度に実施したコンサルテーションプロセスの分析・構造化および評価・検証を行う。例えば症状マネジメントにおける看護活動の質改善がターゲットである場合は次のような項目がコンサルテーションのアウトカムとして期待され、できるだけ客観的な指標を用いて数値化し

て評価する。

### 2. 研究の進捗状況

- (1)平成 18 年度は、コンサルテーションに関する国内外の文献検討、本研究班のコンサルテーション活動記録の分析、がん看護領域におけるコンサルテーションニーズの枠組みの作成、以上の3つを行った。結果、からは【がん看護が直面している困難や課題】、【国内外における看護コンサルテーションの様相】、【がん看護領域における外部コンサルテーションの様相】が明らかになった。からは、がん看護領域における【コンサルテーションニーズ】、【コンサルタントの用いる技術】が明らかとなった。では、との結果を基にコンサルテーションニーズの枠組みを作成した。枠組みの内容は、【直接ケアの質】、【コミュニケーションスキル】、【リスクマネジメント】、【倫理的実践】、【退院調整（地域連携）】、【各種チーム活用】、【看護師のストレスマネジメント】、【キャリアディベロップメント】、【家族ケア】、【専門リソースの活用】、以上 10 項目のニーズにより構成された。この枠組みはがん看護領域の中でも緩和医療領域特有のニーズが多く存在していた。
- (2)平成 19 年度は、ニーズの内容をがん看護領域全般の内容とするために、がん診療連携拠点病院の中でも治療期病棟に勤務する看護師長および看護師を対象に、「がん看護上の課題」および「外部コンサルタントへのコンサルテーションの必要性」を明らかにする調査を行った。結果、明らかになったがん看護上の課題は、【看護部長】：「がん看護のできる人材育成」、「専門

家を生かす組織体制づくり」「新人看護師の実践能力の育成」「リスクマネジメント対策」「地域連携システムの確立」**【看護師長】**：「がん治療の特性に応じた看護」「看護実践能力の育成」「新人看護師の実践能力の育成」「キャリア開発支援」「看護者の心理支援」「リスクマネジメント対策」「管理者としてのマネジメント能力」**【看護師】**：「がん看護の専門的知識の確保」「治療に伴う症状マネジメント」「病期の進行に合わせたケア」「患者の個別性に応じたケア」「内的環境の調整」などの場面が抽出された。

(3)平成20年度は、看護学に関する有識者とのディスカッションを通じて、専門看護師、認定看護師、看護師の裁量の違い、医療分野における看護専門職の発展、コンサルテーション機能の発展などについて検討した。がん看護専門看護師とのディスカッションを通じて、米国のNPの役割を参考に日本の専門看護師の役割拡大について検討した。の結果をもとに外部コンサルテーションモデルを作成した。

### 3. 現在までの達成度

当初の計画通り進行している。

(理由)

研究計画立案時には、全国調査を行う予定であったが、外部コンサルテーションのシステムが整備されていない日本の現状の中では、質問紙調査よりもインタビュー調査により、潜在的なニーズを抽出する必要があると考え、調査方法を変更した。その結果をもとに、予定通り外部コンサルテーションモデルを作成し、今年度は予定通り効果検証をする予定であるため。

### 4. 今後の研究の推進方策

調査結果からコンサルテーションニーズは施設の状況によって異なることが予測されたため、今後は効果検証を行いながら、対象施設に応じたモデルの改変を適宜行う予定である。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計4件)

荒尾晴恵、川崎優子、内布敦子、成松恵、松本仁美、緩和ケア領域における外部コンサルテーション技術の明確化 - 緩和ケア促進に必要なマテリアル整備の経験から -、第22回日本がん看護学会学術集会、2008.2.10、名古屋国際会議場

川崎優子、内布敦子、荒尾晴恵、成松恵、松本仁美、緩和ケア領域における外部コンサルテーション活動～看護実践能力の向上を目指して～、第22回日本がん看護学会学術集会、2008.2.10、名古屋国際会議場

荒尾晴恵、川崎優子、内布敦子、成松恵、松本仁美、看護師が直面するがん看護上の課題の明確化 - 課題に対する外部コンサルテーションの必要性の検討 -、第28回日本看護科学学会学術集会、2008.12.13、福岡国際会議場

川崎優子、内布敦子、荒尾晴恵、成松恵、松本仁美、がん治療期の看護における「外部コンサルテーション」ニーズの明確化、第23回日本がん看護学会学術集会、2009.2.7、沖縄コンベンションセンター

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)  
特記事項なし

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)  
特記事項なし

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

